

2021年6月28日

株主の皆さまへ

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

株主の皆さまのご質問・ご意見等に関する当社の考え方等について

当社第19期定時株主総会に先立ち、多数のご質問・ご意見等をお寄せいただきまして、ありがとうございました。お寄せいただいたご質問・ご意見等のうち、株主の皆さまのご関心の高い事項等についての、当社の考え方等は下記のとおりです。

株主の皆さまには、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

株主の皆さまのご質問・ご意見等	当社の考え方等
新型コロナウイルス感染症や低金利の影響がある中、SMBCグループはどのように成長していくのか。	世界的な景気減速傾向、人口減少等による国内経済成長の停滞等、金融機関にとって厳しい業務環境が続く見通しであり、従来のビジネスモデルを早急に改革する必要があるという認識を、以前から持っております。 新型コロナウイルス感染症が拡大した現状においても、このような環境認識及びSMBCグループの目指すべきビジョンは不変であり、中期経営計画で掲げている諸施策を着実に実行することで、成長につなげてまいります。

株主の皆さまのご質問・ご意見等	当社の考え方等
配当についての考え方を伺いたい。	当社は、株主還元方針として、配当を基本に、機動的な自己株式取得も実施することとしております。配当は累進的とし、中期経営計画期間中に、配当性向 40%を目指してまいります。2020年度の業績は減益となりましたが、上記累進的配当方針に基づき、中間配当金を含めた配当金を 1株当たり 190 円で据置きとしております。また、2021 年度の配当は、配当性向目標の達成に向けた着実な一歩として、10 円増配の 1 株当たり 200 円を予想しております。
株価についての考え方を伺いたい。	現在、当社の株価は、企業価値に比して割安な水準に留まっており、極めて遺憾であると考えております。当社としましては、引き続き、当社の企業価値を市場から評価していただくべく、中期経営計画の諸施策をしっかりと実行し、資本・資産、そして経費の効率向上に努め、企業価値を持続的に高めてまいり所存です。
自己株式取得についての考え方を伺いたい。	当社は、株主還元方針として、配当を基本に、機動的な自己株式取得も実施することとしております。現状、新型コロナウイルス感染症の収束時期や実体経済の影響等を見極めに時間を要するため、自己株式取得の判断を見送っておりますが、状況が好転する場合には、その時点での資本の状況や株価、利益の見通し等を踏まえつつ、機動的な自己株式取得を改めて検討してまいります。
株主優待として、銀行取引に関する各種手数料を優遇して欲しい。	株主優待制度について、具体的に検討しているものはありません。当社としましては、累進的配当方針に基づく 1 株当たりの配当金の安定的な引上げや、機動的な自己株式取得により、株主還元を努めてまいり所存です。

株主の皆さまのご質問・ご意見等	当社の考え方等
<p>当社の取締役会の人員構成に関する考え方を伺いたい。</p>	<p>当社の役員人事は、社外取締役を議長とし、委員 6 名中 5 名が社外取締役で構成される指名委員会において、客観的かつ公平・公正に審議しております。役員には、経営理念に基づく価値を高いレベルで体现し、豊富な実務経験と高い能力、識見を備え、SMBC グループの発展に貢献できる人材を、出身銀行に関係なく、人物本位で登用しております。</p>
<p>カーボンニュートラルの実現に向けて、ビジネスにおいてどのような活動をしているか。</p>	<p>2015 年のパリ協定の採択以降、世界レベルで気候変動への取組みが加速しており、日本政府も 2020 年 10 月、「2050 年カーボンニュートラル」を宣言しました。</p> <p>当社は、本年 5 月、「気候変動に関する現状認識と SMBC グループの姿勢」として「カーボンニュートラルに向けた政府方針を支持するとともに、パリ協定の目標に沿って、温室効果ガス排出量削減に真摯に取り組み、脱炭素社会への移行と実現に資するお客さまの取組みを支援する」旨を公表しております。</p> <p>加えて、「気候変動対策ロードマップ」と称した 2050 年までの全体施策の中で、短・中期的に取り組む具体的な施策を段階的に進めていくことを公表しております。ビジネス面では、グリーンファイナンス及びサステナビリティに資するファイナンスを 2020 年度から 2029 年度までに 30 兆円取り組むほか、「サステナブルビジネス推進室」が国内外のグループ各社を繋げる機能を担い、グローバルかつグループ一体で脱炭素社会への移行と実現に資するソリューションを提供する体制を強化していきます。こうしたビジネスを通じ、カーボンニュートラル実現に貢献してまいります。</p> <p>詳細は、本年 5 月 12 日付当社ニュースリリース「気候変動問題への対策強化について」をご覧ください。</p>

株主の皆さまのご質問・ご意見等	当社の考え方等
<p>石油・ガスセクターに関する今後の方針は。また、人権侵害の懸念から反対運動が起きている石油・ガス関連事業への対応方針は。</p>	<p>石油・ガスセクターの方針については、三井住友銀行において、石油ガスパイプラインのほか、北極圏での採掘事業、オイルサンド、シェールオイル／ガスの4領域に対し、環境・社会リスク評価の適用範囲を拡大しており、融資案件に対しては慎重な検討を行っております。今後、本年5月に策定・公表した「気候変動対策ロードマップ」と称した2050年までの全体施策の中で、短・中長期的に取り組む具体的な施策に沿って、方針の高度化を進めてまいります。また、当社は、制定・公表済の「人権尊重に係る声明」に基づき、プロジェクトの事業者に対して、地域住民等への十分な説明に基づく同意の取得等を求め、その状況を継続的に確認するなど、慎重に対応することとしております。</p>
<p>顧客の脱炭素移行を支援するという方針の下、炭鉱企業へ将来的に与信を行わないことも含めた、移行リスクの検討をどのように行う予定か。</p>	<p>三井住友銀行では、融資の基本方針である「クレジットポリシー」において、社会的規範から逸脱する融資や、環境に著しく悪影響を与える支援は行わない旨を明記しております。大規模プロジェクトの融資判断においては、担当部署が環境・社会に対するリスク評価を実施しており、石炭の採掘については、特に慎重に対応を検討しております。</p> <p>気候変動に関するリスクについては、経営上、特に重大なリスクとして選定しております。低炭素社会への移行による産業構造の変化等に伴う移行リスクについては、リスク事象が発生した際の損失規模等を評価する定量的な分析を実施し、与信関係費用を試算の上、開示しております。</p>
<p>クレジットカード事業の今後の展望は。</p>	<p>クレジットカード市場は、キャッシュレス化の進展に伴い、今後も発行枚数や取引額が増加していくことが見込まれております。このため、SMBCグループにおいても、クレジットカード事業を含む決済ビジネス全般を「成長マーケット」と位置付け、三井住友カードを中心に、各種施策に取り組んでおります。</p>

株主の皆さまのご質問・ご意見等	当社の考え方等
SMBC 日興証券に今後期待することは何か。	<p>SMBC グループとして、証券業務は大きな成長余地がある分野と認識しております。</p> <p>リテール事業部門においては、SMBC グループ全体の資産運用ビジネスについて、SMBC 日興証券が中心となって戦略を企画・推進しております。SMBC グループ一体での取組みを通じて、お客さまの多様なニーズに対して最適なソリューションを提供してまいります。</p> <p>ホールセール事業部門においては、今年度、お客さまの業種にあわせ、SMBC 日興証券における組織の統廃合を行い、機能の集約を行いました。</p> <p>今後とも、海外拠点も含め、銀行と証券の連携をより一層高度化してまいります。</p>
コロナ禍の中、オリンピックを開催することについて、大会スポンサーとしてどのように考えているか。	<p>当社は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのゴールドパートナーとして、関係者のご努力により、皆さまにご理解いただける安全・安心な大会が開催されることを願っております。</p> <p>オリンピック・パラリンピックの開催を通じ、社会全体が一丸となって、コロナ禍という困難を乗り越えることができれば、スポーツがもたらす尊敬・友情・連帯・相互理解という価値が、より一層意味を持つことになると信じております。</p>
コロナ禍ではあるが、しっかりと健全経営を維持して欲しい。	<p>貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。引き続き、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすべく、当社の発展のため、役職員一同、力を尽くしてまいります。</p>

以 上